

科目名	年度	レポート番号	クラス	学籍番号	名前
API 実習	2023	3	B	20122077	Roger Marvin

レポートは 3 ページ以上、5 ページ以内とします。5 ページを超えても構いません。ページ数や文字数よりも、わかりやすく書けているかどうか、点数アップの分かれ目です。改行で稼ぐ行為は減点対象です。

調査レポート名 AI 時代の到来で変わる CEO の意思決定 (<https://www.ibm.com/downloads/cas/AAYNYWE2>)

## 調査レポートの要約

この記事では 4 つのパーツにあります。それぞれのパーツは CEO の意思決定についてです。

パート 1「CEO はどのように意思決定を行うか」では、主に多くの CEO が会社に対する問題や課題をどのように判断するかについて話しています。CEO としては、会社のために意思決定を行っていますが、その決定は簡単なものではありません。特に、競争が激しく、コロナパンデミックなどの厳しい時代において、誤った意思決定があれば、CEO は解任の可能性があります。言い換えれば、どれだけ努力しても、結果が悪ければ CEO の立場が危ういという状況です。この厳しい時代を生き抜くためには、意思決定の戦略やツールが非常に必要です。また、意思決定する際に基準がないため、特に持続可能性やデータとプライバシーの領域などで意思決定が難しくなります。そこで、生成 AI の役割が重要です。生成 AI は強力なツールであり、簡単な問題から複雑な課題まで分かりやすく回答できます。また、自分で調べるよりも生成 AI を使用することで短時間で回答が得られます。CEO たちは生成 AI を使うべきかどうか悩んでおり、実際に 50%以上の CEO が既に生成 AI を戦略的な意思決定や運用上の決定、製品やサービスに統合するために使用しています。しかし、データのセキュリティや正確性に対する懸念がほとんどの CEO にとって共通しています。

調査によれば、業績の高い CEO は予想年間収益成長率が 21%高く、年間営業利益率が 24%高いという非常に成功した結果を示しています。彼らのデジタルインフラストラクチャとデータへの信頼は、投資と効率向上につながります。これらの CEO はデータの重要性を認識しつつも、重要な意思決定には直感と経験を統合した包括的なアプローチが必要だと信じています。指標主導の文化を育む彼らは、指標が組織の行動を動かし、パフォーマンスを包括的に理解できると主張する可能性が 2 倍以上になっています。ステークホルダーとの効果的なコミュニケーションを重視することは透明性と協力を反映し、将来のポジショニングに対するステークホルダーの信頼につながります。これらの CEO は、成果に対する明確な指標を優先し、予測、モデリング、シナリオベースの計画、ベンチマーク、データマイニングなどの多様な計画アプローチを採用することで、不確実性を乗り越えています。

パート 2「決定事項を組織全体に適用する」では、生成 AI を会社内で使用できる環境設定について話しています。調査によれば、多くの企業が既に生成 AI を仕事のスピード向上に使用しています。潜在的な利点があるにもかかわらず、生成 AI の使用に関する明確なガイダンスを提供している CEO はわずか 25%です。CEO の中には、セキュリティ対策やガイドラインを検討するために一時的に使用を中止する人もいます。生成 AI を導入することで、一部の仕事は削減または移動される可能性があります。採用計画があるため、大事な意思決定はまだ明確ではありません。また、CEO のうち 30%しか生成 AI について深く調査していないことから、職場での生成 AI の使用に対する意識と準備が不足していることがわかります。

パート 3「どのような決定が最も重要ですか？」では、CEO たちが意思決定をする際の一番重要な決定について話しています。主な CEO たちは生産性と収益性を最優先としていますが、持続可能性とサイバーセキュリティは大きな課題を引き起こします。持続可能性の側では環境、社会、ガバナンス（ESG）の目標において大きな進歩を遂げている企業はほんのわずかです。問題はどの指標を注目するのかについての不確実性、報告の信頼性への疑問、社会の信頼の低下などが問題になります。CEO たちは持続可能性への取り組みを正確に報告すること、特に生物多様性（Biodiversity）などの分野での進捗状況を測定するこ

との難しさに懸念を表明しています。一方、サイバーセキュリティの方では大企業や国際企業（グローバル企業）などに一貫したルールと管理が必要ですが、生成 AI などの技術を会社に導入することでセキュリティを管理することが難しくなってしまいます。特にデータの信頼性、規制への対応、不確実なデータ所有権、データの効果的な管理などの問題が生じています。

パート4「より良い世界のためのより良い決断」では、CEO たちがより良いデカインためにどのような決定をするのかについて話しています。CEO としては不明な将来に向けて意思決定するのはかなりハードルが高いです。しかも、生成 AI の存在で競争がより激しく、意思決定がより厳しいです。そのために、生成 AI で情報を提供し、パターンを特定し、比較することで意思決定を支援します。先見の CEO なら、前向きな結果を得るために AI の使用を優先し、事前に準備して考える必要性を強調します。これで、行動ガイドで意思決定を評価し、改善するのに役立ちます。その行動ガイドはリーダーシップ、指標と意思決定、人材と労働力、テクノロジーとデータ、エコシステムとパートナーに分けます。

- リーダーシップというのは対象を絞った AI に焦点を当てたトレーニングでチームを強化し、活動よりも結果を優先し、目標や倫理に沿っていないプロジェクトを終了し、意思決定における柔軟性の必要性を認識しながら、多様な計画アプローチを活用すること。
- 指標と意思決定というのはレイヤーを最小限に抑え、組織フレームワークを確立し、データ関連の意思決定を最高データ責任者に依存し、バランスの取れたロードマップの作成に最高サステナビリティ責任者と最高財務責任者を関与させ、持続可能性、データセキュリティ、プライバシーと AI のこと。
- 人材と労働力というのは従業員に対する生成 AI の影響を評価し、混乱や移行に積極的に対処し、効率性を高めるためにデジタル ファーストのソリューションを採用し、人材を雇用してスキルを向上させ、スキル不足を予測しながら競争上の優位性を高めるために最高の人材を戦略的に割り当てること。
- テクノロジーとデータというのは企業の考え方を「AI から始める」にシフトし、シームレスな AI 統合に向けてチームとのディスカッションを促進し、リアルタイムの洞察を得るためにデジタル ダッシュボードを利用し、リネージとセキュリティに重点を置いてデータの欠点に対処し、組織の原則に沿った AI のユースケースを特定し、特に生成 AI と量子コンピューティングのコンテキストにおいて、サイバーセキュリティの有効性を高めるためのゼロトラスト セキュリティへの移行すること。
- エコシステムとパートナーというのは簡素化、デジタル化、連携、オープンイノベーションの活用、オープンハイブリッドテクノロジーによる共通プラットフォームの確立、エコシステムパートナーとのターゲットの調整、一貫した指標の強化、ゼロトラストセキュリティ慣行の導入、将来に向けた主要パートナーへの戦略的投資により、回復力のある企業を構築すること。

## あなたの考え

この記事を読んで、多くの企業の CEO たちが生成 AI を利用して、意思決定をすることがわかりました。生成 AI を利用して、仕事が早くなって、より良い結果が出せます。しかし、生成 AI を使えば、持続可能性やサイバーセキュリティの問題が発生します。それを対応するためには、CEO たちが行動ガイドとして生成 AI を使うことが理解できました。

私は生成 AI を利用して、物事を判断することが良いだと思います。しかし、それは、AI を全部に任せることではなくて、記事に書いた通りに、ガイドとして生成 AI を使います。生成 AI はかなり便利なツールです。データベースから、データを取り、私たちの問題を解決することができます。しかし、現在の生成 AI ではリアルタイムのデータを取れないです。簡単にいうと、AI が使うデータが古いデータ可能性があります。日常的な問題はともなく、企業で意思決定に利用すれば、役に立ってない可能性があります。そのためには、リアルタイムデータを利用する生成 AI が必要です。

また、データは 100%正しいではありません。生成 AI がデータベースにあるデータが正しいかどうかを判断する機能はまだありません。その結果、私たちが質問するときに、データベースにあるデータを、ダメなデータでも取り上げます。もしも、企業でこのデータを使えば、より問題が発生してしまう可能性が高いです。そのために、CEO または企業の幹部として、すべて生成 AI に任せるのはよろ

しくないです。生成 AI を使いながら、自分の経験や知識を加えて、行動することが一番良いだと思います。確かに、全てを AI に任せるより遅い可能性があります、問題が発生リスクがより低いです。

こうしてみると、生成 AI は私たちに未来への一歩です。だが、頼るではなく、使えこなせることが重要です。AI と自分自身でどんな難しい、複雑な課題でも一番良い方法で課題を解決できると思います。したがって、意思決定などの難しい課題で、使い方が正しいければ、生成 AI は最強のツールだと信じます。

## 専門用語解説

- 生成 AI (Generative AI) : コンピュータが学習したデータを元に、新しいデータや情報を生成する技術です。
- CEO (Chief Executive Officer) : 「最高経営責任者」の略で、日本語では代表取締役とは異なり、会社法などで規定されていない役職です。
- 持続可能性 (Sustainability) : 環境や経済などに配慮した活動を通じて、社会全体を長期的に持続させる考え方です。
- ベンチマーク (Benchmark) : 「指標」や「基準」として使用される言葉です。
- データマイニング (Data Mining) : 大量のデータに統計学や AI を活用して分析し、知見を得る活動のことです。
- デジタルインフラストラクチャ (Digital Infrastructure) : デジタル技術や情報通信技術 (ICT) を基盤として構築される組織や社会の基本的な枠組みや施設を指します。
- ステークホルダー (Stakeholder) : 株主、経営者、従業員、顧客、取引先だけでなく、金融機関、行政機関、各種団体など、企業のあらゆる利害関係者を指します。
- ESG: 環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字を取って作られた言葉で、企業が長期的成長を目指す上で重視すべき観点です。
- 特に生物多様性 (Biodiversity) : 異なる環境で様々な生き物が調和して存在することを指します。
- オープンハイブリッドテクノロジー (Open Hybrid Technology) : あらゆる環境でアプリの実行と管理、デジタルビジネスの変革を可能にする柔軟性を提供します。
- IBV: IBM のビジネス研究所で、企業や政府が直面する経営及び経済問題に焦点を当てた研究機関です。
- サステナビリティ (Sustainability) : 環境や経済に配慮した活動を通じて社会全体を長期的に持続させる考え方。
- バイアス (Bias) : 先入観や偏見を指す言葉。
- フランチャイジー (Franchisee) : フランチャイズを契約した加盟店のこと。
- ボトムアップ (Bottom-Up) : 組織の下位が意見や案を出し、上位が吸い上げて合意や決定に至る形式。対義語はトップダウン。
- ガバナンス (Governance) : 公正な判断や運営がされるように監視・統制する仕組み。
- ユースケース (Use Case) : システムにおける活用事例のこと。
- サイバーセキュリティ (Cybersecurity) : 大切な情報が外部に漏れたり、ウイルスに感染したりしないように対策をすること。
- シナリオ・プランニング (Scenario Planning) : 環境変化の可能性を複数の未来シナリオとして描き出す計画策定手法。
- デジタルダッシュボード (Digital Dashboard) : 企業のビジネス状態を視覚化し確認できるビジネス管理ツール。
- レジリエント (Resilient) : 事業環境の変化に迅速かつ柔軟に対応し、リスクを反発力に変えて成長する企業。
- デジタルインフラ (Digital Infrastructure) : デジタル技術を支える基盤、例えばインターネットやクラウドコンピューティングなど。

- サプライヤー (Supplier) : 商品やサービスを提供する人や企業。
- マクロ経済 (Macroeconomy) : 政府、企業、家計を一括りにして捉えた経済社会全体の動き。
- モダナイゼーション (Modernization) : 過去の技術や仕組みを最新のテクノロジーやトレンドに合わせて最適化し、新たな価値を生み出す変革。
- インクルージョン (Inclusion) : 企業内全ての従業員が尊重され、能力を発揮して活躍できる状態。
- デジタル・ダッシュボード (Digital Dashboard) : 企業のビジネス状態を可視化し確認できる経営者向けのビジネス管理ツール。